

P1-21-3 当科における子宮体部癌肉腫に関する臨床的検討

佐賀大¹, 佐賀県立病院好生館², 高木病院³野口光代¹, 橋口真理子¹, 宮本麻衣子¹, 宮田早織², 林 久雄¹, 安永牧生², 中尾佳史¹, 岩坂 剛³, 横山正俊¹

【目的】子宮体部癌肉腫は治療抵抗性で予後不良な疾患である。当科にて経験した症例の臨床病理学的特徴を明らかにする。

【方法】2001～2010年に当科にて治療された子宮体部癌肉腫は子宮体癌266例中12例(4.5%)。平均年齢は66歳(56～75歳)進行期は1b:4例, 1c:2例, 2b:1例, 3a:1例, 3c:2例, 4b:2例。観察期間は18カ月以上とし、後方視的に臨床的背景、組織型、治療法、予後因子などについて検討した。【成績】初発症状は91%, 11例で性器出血を認めた。生存期間中央値は26カ月。全例で子宮全摘+両付属器切除, リンパ節郭清は9例で施行。残存病変のない9例のうち、無病生存は5例(1b:4例, 2b:1例, 術後補助療法として放射線療法3例, 化学療法2例)。残存腫瘍のあった2例はいずれもタキサン系を含むレジメンで行い化学療法施行し効果がみられた。また再発症例において化学療法を行い長期生存が得られる症例もあった。

【結論】当科での子宮体部癌肉腫症例では、術後補助療法として放射線療法と同様に化学療法による治療も生存期間延長に寄与する可能性があると考えられた。文献的報告を踏まえて考察を行う。

P1-21-4 当院における子宮肉腫20症例についての検討

東京医大

寺門千華, 佐々木徹, 向田一憲, 高木偉博, 西 洋孝, 寺内文敏, 井坂恵一

【目的】子宮肉腫は子宮悪性腫瘍の約3～7%を占める稀な腫瘍で、予後は極めて不良である。再発危険因子や標準的治療は確立していない。今回、我々は、当院における、ここ10年間に経験した子宮肉腫についての検討を行った。【方法】癌肉腫を除く、平滑筋肉腫・子宮内膜間質肉腫の20症例について検討を行った。内訳は平滑筋肉腫11症例、子宮内膜間質肉腫9症例であった。それぞれについて、年齢、妊娠分娩歴、既往歴、診断方法、治療方法、病期、後療法の有無、再発の有無、腫瘍マーカーの値、などについての検討を行った。【成績】針生検を行い、診断を行ったのは2症例のみであった。試験開腹術を含めると、全例に手術が施行され、ほぼ半数に術後後療法が施行されていた。【結論】子宮肉腫は稀な腫瘍であり、診断が非常に難しい。良性腫瘍と診断され、長期的に経過観察されている症例も多く認められる。症例を重ねる事で、早期発見と再発危険因子、そして標準的治療が早急に確立されることを期待する。

P1-21-5 当院における子宮肉腫21例の検討

帝京大ちば総合医療センター

嘉本寛江, 佐川義英, 古村絢子, 寺田光二郎, 中村泰昭, 落合尚美, 中川圭介, 中江華子, 五十嵐敏雄, 梁 善光

【目的】子宮肉腫は子宮体部悪性腫瘍の4～9%と比較的稀な疾患である。確立した治療方法がないのが現状でありこのため一般に予後は不良である。今回、子宮肉腫の臨床像を明らかにする目的で、当院での初回治療例の臨床経過を検討した。【方法】1989.1～2012.9に当院で経験した子宮肉腫21症例を対象とした。内訳は子宮内膜間質肉腫(ESS)9例、癌肉腫(CS)6例、平滑筋肉腫(LS)5例、腺肉腫(AS)1例であり、これらにつき組織型ごとの症例背景・診断・治療成績を後方視的に検討した。【成績】1. 患者年齢の中央値はESS53歳(36～63歳), CS64歳(61～70歳), LS45歳(39～83歳), AS67歳だった。2. 術前子宮内膜細胞診陽性例はESS1/9, CS6/6, LSおよびASは0/5, 0/1だった。また、術前組織診断で悪性と診断されていた症例はESS6/9, CS6/6, LS, ASは0例だった。3. 術前の画像診断ではESS8/9, CS6/6に悪性の可能性が指摘されていたが、LSでは2/5のみだった。4. 臨床進行期はESS I期2例, III期1例, IV期6例で、CSI期1例, III期5例, LSは5例全例I期, ASI例はI期だった。5. 治療は原則的に子宮摘出・両側付属器切除術・骨盤リンパ節郭清+術後化学療法を施行した。6. 再発再燃例はESS1/9, CS5/6, LS0/5, AS1/1であり、5年内の死亡例はESS5/9, CS4/6, LS0/5だった。【結論】ESS, CSは高率に術前に悪性と診断されていたが、LSは術前悪性診断がつかない例が多い。一方、臨床進行期と治療予後は、LSでは早期例が多く比較的良好な経過をたどるのに対し、ESS, CSは診断当初から進行例が多く、予後は非常に不良だった。子宮肉腫の進行例に対しては手術術式の工夫や有効な化学療法のさらなる開発が必要と考えられた。